

平成 30 年 11 月 30 日

伊勢市長 鈴木 健一 様

伊勢市総合計画審議会
会長 新田 均

第 3 次伊勢市総合計画の進行管理について（答申）

平成 30 年 10 月 23 日付け 30 企第 638 号で諮問のありました第 3 次伊勢市総合計画の進行管理については、下記のとおり答申します。

記

総合計画の進行管理における当審議会の役割は、事業実施後の行政の自己評価に対する外部評価と考えるが、今回は、計画策定初年度ということから、既に進行中の今年度の実施計画を対象として、今後の進行管理のあり方と、来年度の実施計画策定に当たって市に考慮してほしい事柄について調査審議し、意見をまとめたものである。

1 進行管理（評価）のあり方について

(1) 実施計画について

計画策定時点において、既に当年度予算が成立していたことから、今回の実施計画は、前期基本計画の関連施策に既存事業を再編・整理したものとなっており、今後どの分野・取組に力を入れていくのかが読み取れなかった。

「予算を増やす」と「重きを置く」はイコールではないことから、特にソフト事業の金額に表れない創意工夫の部分で、この 1 年間、取組として何を頑張ろうとしているのかという「思い」を、前年度事業費との比較とともに示していただきたい。

また、個別事業の予算の増減だけでなく、毎年見直した財政収支見通しを記載しないと、総合的な判断ができない。

(2) 進行管理のスケジュールについて

進行管理のサイクルをより効果的なものとするためにも、予算編成作業前に評価を行う考え方は、適切であると考えます。



(3) 進行管理シートの様式について

進行管理シートでは、前期基本計画に掲げた重点課題に対する取組や、成果指標の目標値に対しての実績が明示されるようになっているものの、取組に当たっての創意工夫などが分かりにくい。議論の材料となり、正しい評価につながるよう「実績と見通し」欄には、取組の意図と自己評価を十分に記述されたい。

個別事業の成果に焦点を当てすぎると、大本の7つの主要課題の達成度を見失いがちになることから、7つのまちづくりの主要課題の現状を把握・認識したうえで、個々の節（施策）のどこが弱くてどこをどう変えるかといったレポートを作れば議論がしやすくなると思う。

2 施策体系別事業計画等に対する意見

今後の取組に向けた様々な意見や指摘が委員から寄せられ、それらを別紙のとおりまとめたので、どのように取り入れて具体化するかを検討されたい。

また、市民が伊勢にいる誇りや意味を感じ、素晴らしいところだから多くの人々に来てほしいという思いになるような取組が各分野で行われることを要望する。

施策体系別事業計画等に対する意見

分野	内容
第1章 市民自治・市民交流	特になし
第2章 教育	<p>【第1節 学校教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●重点課題 21A（確かな学力と社会参画力の育成）の課題解決の方向性「伊勢を愛し、伊勢を大切に思う心を育むこと」に対応する具体的事業が無い。伊勢を愛し、伊勢を大切に思う心を育む取組や社会参画力を養う取組を、ぜひ来年は加えていただきたい。 ●重点課題 21B（豊かな心の育成）の課題解決の方向性で道徳教育や人権教育を掲げているが、人権教育の取組はあるものの、道徳教育に関しては事業が無いため、何らかの取組を行っていただきたい。 ●課題 21E（安全で安心な教育環境づくり）の課題解決の方向性で、不登校を生まない環境整備を掲げているが、実質不登校ゼロの取組がなされている長野県安曇野市など、成果を挙げているところの調査をお願いしたい。 ●島根県出雲市の伝統文化の啓発など先進的に取り組む他府県の教育委員会の実践例について、「どうしてできるのか」など、調査していただきたい。 <p>【第3節 スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最近、スポーツに係る不祥事が多いので、スポーツ倫理や指導者倫理向上のための取組を入れていただきたい。 <p>【第4節 文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課題 24A（文化財等の保存・活用）の課題解決の方向性は、施設に関連した取組ばかりで、民俗行事の維持などの取組は、観光施策にまわされている。計画策定の際の答申でも触れたように、維持に課題がある行事などの対策については、観光など複数の分野の連携や協働により取り組んでいただきたい。
第3章 環境	特になし
第4章 医療・健康・福祉	<p>【第1節 保健・医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域を感染症からしっかり守るため、はしか、風疹のワクチンを早期接種に係る啓蒙に取り組み、予防接種行政を進めていただきたい。 ●夜間病院へ行きたい時に、タクシーを呼ぶことができないと、救急車を呼ぶことにもなるが、救急車をタクシー代わりに利用することが問題視されている。市が動くことは難しいかも分からないが、関係機関へ働きかけるなどしていただきたい。 <p>【第3節 共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一般就労、福祉的就労ではない第3の就労の道として期待された社会的事業所制度については、県内でも固定された企業しか取り組んでいない。障がい者と健常者が一緒に働ける場が広がるような工夫を考えていただきたい。 <p>【第4節 子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2歳未満児を受け入れる施設があつという間に一杯になり、働くために子どもを預ける場所が必要だと感じる。しっかりニーズを把握し、待機児童がないということで大丈夫と思わず、計画を進めていただきたい。 ●子育てを終えた世代が子どもの面倒を見るといった取組（ファミリーサポート制度）について、多くの方が利用、参画できるよう周知と促進をお願いしたい。 <p>【第4章第5節 高齢者福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●団塊の世代が75歳以上になる「2025年問題」の先には、認知症問題が考えられる。施設に預けるだけでなく、生活の中に取り込むことで認知症の進行が進まないと聞くので、コミュニティづくりが重要と考える。そうしたことを見据えた計画を立てていただきたい。

分野	内容
<p>第5章 防災・防犯・消防</p>	<p>【第1節】 防災・減災</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2018年に各地を襲った災害を見ると、外部からの支援をうまく受け入れているまちがより早く復旧していることから、「受援力」の向上に関しても、これからの計画に反映していただきたい。 ●避難所運営についての考え方が、単に「生きていれば良い場所」から「生活を支える場所」に変わってきており、それを認識する必要がある。また、避難所が地域の拠点になるということは、伊勢市の計画に位置付けられているが、住民と共有するという観点での啓発をもう少し強化していく必要がある。 <p>【第2節 防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●犯罪件数そのものは減っているものの、犯罪の中身が変わってきている。手口が巧妙化する犯罪に対する啓発を地域として取り組む必要がある。 ●今後増えることが見込まれる外国人観光客が犯罪に巻き込まれない、万が一の場合もトラブルに対応できるような体制を構築していただきたい。 <p>【第3節 消防・救急】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防本部が移転して2年経過し、移転の成果と課題が見えてきたと思う。成果を伸ばし課題を改善するための取組、特に消防においては初期消火、救急においては初期救命を担うバイスタンダーの行動促進が課題となっているように思うので、それらの啓発を促進する機会のさらなる回数増や内容充実に向けた取組を進めていただきたい。 <p>【第4節 交通安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外国人を含む観光客の増加に伴い、交通事故に巻き込まれない対策・万が一巻き込まれた場合の体制づくりが必要と考える。こうした取組は「また行きたくなる伊勢市」につながる。
<p>第6章 産業・経済</p>	<p>【第1節 農林水産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「伊勢」と農産物が結びつかないので、ブランド化の推進が大切である。 <p>【第2節 商工業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新道商店街は市道であり、商店街が合意していても、占有許可などの手続きが複雑で、イベントをするにもハードルが高いと聞く。商店街の活性化のためにもハードルを下げるような取組を行っていただきたい。 <p>【第3節 観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課題 63F（市民力の向上、人材の育成・活用）の課題解決の方向性として、「地域を愛し高い市民力を持つ人材、次世代の担い手の育成」とあるが、伝統行事の継承事業の一つしか取組がない。人を呼ぶことには熱心であるが、現存している伝統行事を市民が維持していくことに対する取組が弱いと思われるので、複数分野で連携して取り組んでいただきたい。 ●災害時の外国人、帰宅困難者対策についてはもう少し進める必要がある。観光協会の案内所でどこまで何ができるのかを早めに考え、行政と手を携えながらガイドラインを作っていく必要がある。 <p>【第4節 就労・雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者の雇用状況を見ると、大きな事業所より個人商店や家族的な工場のほうが雇用されていることが多く、そういったところに対し市として後押しができないか。 ●働き方改革について、法に関する周知・啓発をもう少し行政から事業所にしていただきたい。また、事業者からは人手不足の声が聞こえ、人手不足は過労、残業増にもつながるので、そういった部分への支援、取組をもう少し踏み込んでいただきたい。

分野	内容
<p>第7章 都市基盤</p>	<p>【第3節 河川・排水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市が管理するポンプ場はたくさんあると思うが、自然災害が続く中で、対応の迅速さで被害の差が出るので、地区や人によって対応にバラつきが出ないように、災害時に稼働させる時間帯などの指導をしながら、市が災害前のデータも分析し、減災に取り組んでいただきたい。 <p>【第4節 住環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「立地適正化計画」を着実に進めていただきたい。他の章（分野）と連動するが、不要な都市基盤は廃止し、必要な都市基盤は重点的にメンテナンスしていただきたい。 ●阪神淡路大震災の関連で、地域の再開発計画がもともとあり、被災後それをそのまま復興計画にシフトしたことで、ある地区は復興が早かったと聞く。都市基盤の関連計画を見ると、計画期間が長いものがあるが、その間に地震が起こる可能性があるのでそうした視点も考えておくといい。
<p>第8章 市役所運営</p>	<p>【第1節 行財政運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合計画の認知度、また「まちへの愛着」を上げるための取組を示していただきたい。 ●商工会議所の「検定お伊勢さん」事業は、伊勢の人が伊勢を知って、訪れる人に話ができるようになる取組であり、学校現場での利用など、活用を推進していただきたい。 <p>【第2節 行政組織力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材育成については、研修の方針だけでなく、研修の具体的中身をもっと示し、また採用時から心構えを整えるような採用方法について工夫していただきたい。

